

当院の虐待対応へのシステム作り

小邑 昌久 浮田 雅人 渡邊 洋子 芝 寛志

高山赤十字病院 医療社会事業部

【はじめに】

当院は、岐阜県の飛騨圏域の中核病院であり、三次救急まで引き受けている。

その中で、小児・高齢者・障がい者・DV等虐待を受けて受診される方を時々発見する。

“病院”では、被害を受け、受傷された方々を発見しやすい立場にあり、加害者から被害者を守り、関係機関へ通告する義務が法的に課せられている。

しかし、当院ではマニュアルの整備すらない状況で、日々MSWやその場にいた医師、看護師、事務等が対応する状況だった。

そのため、今回虐待対応サポートチームを立ち上げ、シミュレーションを行い、マニュアルを作成し実行することができたため報告する。

【活動内容】

1. 「虐待対応マニュアル作成ワーキンググループ」を組織し、小児・高齢者・障がい者・DV対応マニュアルを作成した
2. 各分野のシミュレーションを行いマニュアルの検証を行った
3. 外部機関を交え、マニュアルの検証を行った
4. 平成28年度より委員会化し、虐待対応サポートチームを立ち上げ、症例の振り返り、マニュアルの見直しを行っている

【結果及びまとめ】

ワーキンググループを通し、ケースの件数が増加した。課題としては、通告後、被害者の家族、加害者の家族の対応、通告者の精神的なフォローへの難しさを感じている。

地域医療構想下における病院事業の取り組みと課題

和田 功輔 登林 正規 坂之上 宏幸

高山赤十字病院 企画調整課

【はじめに】地域医療構想における策定の考え方は医療機関としての心構えのようにみえる。地域医療構想は、2025年を想定した各医療機能における病床の必要量を推計するだけでなく、住民を含めた幅広い関係者と地域実情に応じた課題を検討し合意する過程、または、医療機関による自主的な取り組みや医療機関相互の協議を促進するという視点に大きな意義がある。大きな転換期である現在、当院における病院事業にどのように取り組んできたか、そして表出した課題についてどのように向き合ってきたか発表する。

【当院の状況】病院事業を2つ挙げる。1つは病床再編、もう1つは病院機能評価である。病床再編は地域医療構想と密接であり、特に病床数の削減や病棟機能の分化などは外部環境の理解なしには検討できず、まさに俯瞰的な視点が必要である。当院では地域包括ケア病棟の開設、病床管理体制の構築を軸に病床再編に取り組んだ。病院機能評価受審は積年の課題であり、医療の質向上に向けて、職員に負担感を与えることなく、現在やっていることを自らどう捉え、伝え、改善していくのかということを主眼に取り組んでいる。

【内容】「地域医療構想下」とは、「自己（病院や部署）で完結するのではなく、他者（地域や関係機関等）の相互理解と協働があってできる状況であること」と理解している。つまり、チーム医療と同義である。その意識を職員へ周知し、意識変革を迫ることを主眼に、病院事業に取り組んだ。具体的には、会議等における俯瞰的な視点の維持、「連携」や「協働」といったキーワードの発信、積極的な院内発表による啓発等である。

【考察】病院事業はある程度達成できる。ただ、常に上述するような意識を持ち続けることは難しい。2つの病院事業は今後も継続していくものである。事業の進捗、課題等について追って報告したい。